令和3年度 倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

日　時　　令和3年11月16日（火）14時00分～15時30分
場　所　　倉吉市役所第2庁舎302会議室（第2庁舎3階）

（議事録）

1 開会	
事務局	（開会） 皆様。本日は大変お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。 定刻になりましたので、只今から令和3年度倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会します。 （訂正・修正） 冒頭事務局よりお詫びを申し上げます。本日お手元に資料の1から5を準備させていただいてるところでございます。本来ですと事前にお送りいたしまして目を通していただき、本日の会議を迎えるということとしておりましたけれども、事務局の不手際で、事前配布がかないませんでした。誠に申し訳ございません。謹んでお詫び申し上げます。 そうしますと改めまして、日程に従い会議を進めます。どうぞよろしくお願いいたします。
2 会長あいさつ	
事務局	では日程の「2　会長挨拶」ということで、会長よりご挨拶をお願いいたします。
会長	こんにちは。なんか全部久しぶりという形で、こういう毎回ちょっと復習をしないとどういう会だったかなっていうような気がするんですけども、そのネーミングの通り『定住自立・共生』というところに大きなポイントがあって、この地域をみんなで定住する地域にしたい、そして自立する地域にしたい。そして1市だけではなく4町とも連携して共生していこうという。これは平成20年に総務省が地域活性化ということで打ち上げて、そしてそれを受けて22年から具体的に我々の懇談会で動き出して、そして大体5年計画を作って、昨年の3月に第三次の計画を作ったということです。その中身は、一つは生活機能を強化しようということで、医療であるとか福祉であるとか教育部分を連携することによって強化しよう。それから文字どおり連携、或いは結びつけということで交通網であるとか、或いは観光であるとか地場産業というものをどうしていくかということ。そして、この圏域の中でのこういうマネジメント力を上げよう。合同研修であるとか人事交流であるとか。こういうようなことを中心にした計画を、この3月に皆さんとご一緒に作って動き出している。令和2年度から令和6年度までの計画です。 今日の大きなポイントの一つは、それが動き出したところですが今どんな状況になってるか。ご報告を見ながらちょっとチェックをして、その前提に我々がこの圏域でいつも気になってるのは人口です。人口減少がどんどん進んでいる。昨年、令和2年に国勢調査がありました。その国勢調査のとりあえずの集計結果が出てきたということで、事務局からそれを分析したことをご報告していただいて、それについて皆さんの感想なり意

	見を伺い、それから第三次計画の進捗状況についてまたご意見を伺うと。こんな会になろうと思います。最大1時間半、3時半には終わりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
3　鳥取県中部定住自立圏域の人口動態について **資料1　鳥取県中部定住自立圏域の人口動態について**	
事務局	（事務連絡） それではこれ以降、懇談会の設置要綱の第6条第1項に基づきまして、会長が議長となるとありますのでお願いしたいと思いますけれども、その前段、会議の成立要件につきまして、本日のご出席、委員 18 名中 13 名の出席をいただいております。委員の過半数の出席を満たしていることをまずもってご報告をさせていただきます。 では、ここからの進行につきまして、会長にお願いしております。よろしくお願いします。
会長	それでは、お手元の次第に沿って3番目ですけども、鳥取県中部定住自立圏域への人口動態についてということで、先ほどちょっと触れましたけども、国勢調査の結果が出ました。そこをもとに少し報告をしていただこうと思っております。お願いいたします。
事務局	鳥取県中部定住自立圏域の人口動態についてご説明します。 令和2年 10 月1日を基準日として国勢調査が行われました。その結果の速報値が今年6月に総人口のみですけれども公表されております。その数字を見ますと、中部圏域の人口が9万 9,267 名ということで、1市4町の合計が初めて 10 万人を切るという結果になっております。この人数の過去の推移を見ますと、平成2年から平成 12 年の 10 年間はマイナス 4.0%、平成 12 年から平成 22 年の 10 年間はマイナス 6.8%、平成 22 年から令和2年の 10 年間はマイナス 8.7%ということで、10 年スパンで見ましても、人口減少が加速しています。中部圏域の人口を、東部圏域と西部圏域を比較すると、中部圏域は5年前から人口がマイナス 4.84%になっているのに対し、東部圏域はマイナス 3.41%、西部圏域はマイナス 2.79%ですので、東部圏域・西部圏域と比べて、中部圏域はより人口減少が進んでいる状況が確認できます。中部圏域の中で人口減少が大きい市町は、倉吉市がマイナス 5.13%、三朝町がマイナス 6.50%、琴浦町がマイナス 5.99%ということで、倉吉市・三朝町・琴浦町が大きな人口減少になっています。 人口減少を、社会動態と自然動態と分けて分析をしていきたいと思います。初めに社会動態でございます。ここからは、まだ令和2年度の国勢調査の詳細な結果が出ておりませんので、平成 27 年の国勢調査をもとにした数字になっています。 社会動態ですけれども、転入と転出を比べますと、どの年におきましても転出の方が多い状況ですので、転出超過がずっと続いていることが分かります。これは倉吉市の数字で恐縮なんですが、転出した社会増減を、年代ごとに輪切りにしたものでございます。この 15 歳から 19 歳の層が、5年後 20 歳から 24 歳になった時にどれだけ人口の増減があるかといいますと、1,000 人ぐらいの転出超過が起きています。これを中部圏域で言いますと大体倍ぐらいになりますので、中部圏域では大体 2,000 人ぐらい転出

	超過になっています。20 歳から 24 歳の層が5年後 25 歳から 29 歳になったときに、どれぐらい人口に変化があるかというと、倉吉市の場合では 300 人ぐらいです。1市4町で考えれば、おおよそ倍ぐらいになりますので 600 人ぐらいということになります。これで見ますと、高校卒業して県外に転出した若者が、概ね卒業後に3割程度Uターンしてくるというようなことが、この図からは見てとれます。ここが大きな社会減の要因にもなっているということになります。 　では若者が転出する理由を詳しく見ていきたいと思います。高校卒業生の大体7割ぐらいが大学等に進学されます。進学をされる7割のうち、7割の方が県外の大学や専門学校等に進学をされます。7割かける7割ですので、高校卒業生の約半分、5割の方が県外に進学をされるというような状況になってます。県外の進学先のランキングですけれども、一番高いのが大阪府で 12.8%。次いで、岡山、兵庫、京都、広島、東京、島根というふうに続いていきます。県外に進学を希望する理由は、『希望する学部・学科が鳥取県内にない』ということが一番大きな理由になっております。続いて、大学を卒業した後の就職状況です。県外の大学を卒業した後にUターンする割合は約3割。先ほどご説明したグラフの通り3割になっています。県外の大学に進学した人が、卒業後に鳥取県内に就職を考えなかった理由は、「都会で生活をしたい・鳥取県を出たかった」が 26.0%で最も高い結果になっています。次いで「自分の就きたい仕事がなかった」となっており、都会で生活をしたい、また仕事がないというところが、Uターンできない、しない理由になっています。 　一方で、県外から鳥取県内の大学に進学した学生が、鳥取県内に就職する割合、Iターンという形ですが、この割合が大体1割いらっしゃいます。県内の大学は、鳥取大学、鳥取環境大学、また鳥取短期大学・鳥取看護大学の全部の合計が大体1割になってます。鳥取大学、鳥取環境大学の学生のうち、県内の出身の方が大体1割ぐらいいます。その県内出身者のうち、そのまま県内に就職される方が大体7割いるという数字が出ています。鳥取短期大学の数字を見ますと、県内の出身者の学生の割合が大体8割いて、そのうち県内に就職する人が7割から8割、毎年いますので、鳥取大学や鳥取環境大学よりも高い地元定着率が見て取れます。特に鳥取看護大学は、県内の出身者が 7 割で、そのうち県内に就職をする人が9割以上ということで、かなりの地元定着率があります。また鳥取看護大学は、県外から来た人がそのままIターンをする割合も非常に高くなってまして、卒業生のおよそ9割以上が鳥取県内に就職をされている状況があります。 　就職みらい研究所という研究機関が公表している数字ですが、大学生が卒業するタイミングで、インターネットによるアンケート調査をした結果になります。一番左側の列が、大学が所在する地域、右側の列が、回答者がその地域の出身者なのか、その地域外から大学に行った人なのかの区別があり、引き続き大学のある地域に就職をしたのか、しなかったのかという表になっています。中国地方を見ますと、中国地方以外の出身の方が、中国地方に就職をした、いわゆるIターンの割合は 4.5%となっています。全

	国と比較すると、低いほうになっています。一番高いのは首都圏で 19.9%、次いで京阪神が 12.5%です。京阪神は、京都、大阪、兵庫になります。なお、近畿は和歌山県、滋賀県、奈良県で、低い数字が出ています。中国地方は 4.5%しかIターンしていないということですので、他の圏域と比較すると、中国地方は伸びしろがあると、前向きに見れば、取ることができると思います。 同じレポートで、『大学を卒業する時点で、その大学がある地域に愛着がありますか』という問いに対しては、中国地方の大学では、中国地方の出身の方は、68.4%の方が、その地域に対して愛着があると答えています。中国地方以外の出身の方が、中国地方に対して愛着があると答えた方は 46.2%になっています。この数字を他の地域と比較すると、低めの数字が出ていることが分かります。最も高いのは北海道です。北海道出身の方は 83%で、圏域の中で1位になっています。また四国や九州は愛着を持たれています。中国地方は、圏域の8番目、9番目というところです。中国地方の魅力を学生にしっかり伝えて、愛着を持っていただくことで、その圏域に就職をされる方がもっと増えていく可能性がまだまだ残っているんじゃないかということが、このレポートからは読み取れるかなと思っております。 続いて、国の『まち・ひと・しごと総合戦略』の中にあるグラフを準備いたしました。現在東京1極集中が進んでいますが、男女別に見た場合のグラフになります。女性の方が東京に集中しているということが見て取れます。中部圏域ではどうかということを調べてみました。中部圏域は平成 27 年の数字でマイナス 4.06%です。このマイナス 4.06%を男女別に見ますと、女性はマイナス 4.46%となってますので、男性よりも女性の方が転出していることがわかります。国と同じような傾向があるということが分かります。この転出をさらに年齢別で見ると、15 歳から 49 歳の若年層の減少率はさらに大きくなってまして、マイナス 8.91%いうことで、15 歳から 49 歳の女性の多くが圏域外に転出をしていることが分かります。男性の 15 歳から 49 歳と比較すると、男性はマイナス 6. 00%ですので、男性よりも女性の方が多く減っていることがわかります。東京に集まる理由ですが、第 1 の理由は、「同じ会社や同じ業種でも、やりがいのある仕事が東京圏に多い」ことです。次いで、「娯楽・レジャー・文化・芸術等に触れる機会が東京圏に多い」、「情報通信など成長している企業が東京圏に集中している」、「女性が活躍できる仕事が東京圏に多い」となっています。仕事と娯楽が東京に集まっていて、人が集まっている主な要因だろうということになります。 続いて自然動態です。全国のグラフでは、2019 年の合計特殊出生率は 1.36 で、近年ずっと低空飛行が続いています。中部圏域を見ますと、平成 15 年から 19 年を底として、近年上昇傾向にあります。上層傾向にある理由の一つが、合計特殊出生率の分母となる 15 歳から 49 歳の女性が減少していることが考えられます。分母が減ると率が上がるということです。前向きに捉えれば、子どもを産み育てやすい環境が整っていて、都会に比べると、子どもが多いのではないかと考えられます。どちらの要因もあるのではないかと思います。なお、これは平成 29 年までの数字ですが、昨年からはコロナの

	影響がありまして、大きく下がる見込みです。 続いて合計特殊出生率を東部、中部、西部で比較すると、中部は高めに推移していることが分かります。次のスライドは、合計特殊出生率を都道府県別に順位づけをしたものになります。2015 年から 2019 年の平均を出したところ、第1位は沖縄県で 1.91。以下、島根県、宮崎、長崎と続いて第8位が鳥取県で 1.63。最下位は東京都で 1.21 となってます。これを見ますと、沖縄、九州、山陰が高い数字になっています。2015 年から 2019 年の平均値ですが、概ねこの傾向が毎年見られます。合計特殊出生率は西高東低という言われ方をしますが、その原因については明らかになっていません。 続いて子どもの内訳です。第一子の割合の第1位は東京都で 54%、つまり、54%の子どもが一人っ子ということになります。鳥取県は 40 位で、42.2%の子どもが一人っ子ということになります。一番低いのが沖縄県ということになっています。続いて第三児以上の割合では、第1位が沖縄県で、鳥取県は第8位です。第三児以上の割合と合計特殊出生率は相関性が高いため、第三児以上を産んでもらうかどうかが、合計特殊出生率に大きく影響してきます。 これまでの話をまとめると、鳥取県中部圏域の人口減少が加速しています。東部西部の比較をしても、中部圏域の人口減少が大きくなっています。特に、倉吉市、三朝町、琴浦町の人口減少が顕著になっています。社会動態は転出超過が続いています。県外に進学した学生が卒業後にUターンする割合は3割。県内に進学した学生が県内に就職する割合は7割で比較的高い地元定着率になっています。県外から鳥取県内に進学した人がそのまま鳥取県内に就職をする、Iターンの割合は1割。大学生活で圏域に愛着を持つような取り組みや地域との関わりを持つことで、Iターンする人がもっと増える可能性があるのではないかと思います。15 歳から 49 歳の若者の人口減少は、顕著になっています。合計特殊出生率は沖縄、九州、島根に次いで鳥取県は高くなっています。第三児以上の子どもの割合が合計特殊出生率に大きく影響します。 考えられる対策を幾つか挙げてみました。県外の大学に通う学生が地域に愛着を持つ取り組みを実施することによって、県外からの学生のIターンを、1割から2割に上げることができるのではないか、ということが考えられます。続いて、県内の大学に通う県内の学生についても、より圏域に愛着を持ってもらうことで、7割から8割に上げることができるのではないかと考えられます。続いて、若者がやりがいを持てる仕事を増やしたり、女性が活躍できる仕事を増やしたり、成長企業を誘致したり、娯楽文化を充実させたりする必要があります。最後に、第1子、第2子を持つ世帯が、もう1人子どもを持ちたくなるような施策が必要だと考えられます。この辺りを考えていくことが、人口減少に歯止めをかけるきっかけになるということでまとめさせていただきました。私から以上です。
会長	ありがとうございました。皆さんの方から何か。ご質問なり、お気づきの感想、ご意見ありましたらお願いします。いかがでしょうか。また後程お聞きしますので、次のところへ行って、そのあとまた、今のところに戻っていただいて結構ですから、そのようにします。

4　報告事項 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンの取組について（資料2・3・4）	
会長	では2の報告事項。鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンの取り組み状況のご説明をお願いします。
事務局	4番の報告事項につきましてご説明をさせていただきます。資料は、資料番号2番、3番、4番を使用して説明をいたします。 まず資料2番、A3横向きの1枚ものの資料をご覧ください。こちら資料2番には、定住自立圏共生ビジョンに掲載している事業の取り組み成果についてまとめた資料になります。指標が多いですので、いくつかピックアップして説明をさせていただこうと思います。 まず福祉分野ですけども、早期発見の取り組み達成率、認知症に関係する指標ですけれども、タッチパネルの検査を受けた人を 65 歳以上の人数で割った割合は 4.95 ということになっております。前年度が 6.95 で、減少していますが、これは受けた人数が減っておりまして、こういう数字になっております。続きまして、子育て支援体制の整備及び充実の指標で、病児病後児保育の利用者数が 326 人で目標を下回っております。その要因は、毎年度、利用者が特定されるというところもありまして、利用者の勤務形態であったり、状況の変化によって年度ごと大きく変わるものになっています。また、コロナ禍で、日常的に感染症対策が徹底されているというところもありまして、疾病そのものが減っている傾向にあるということです。休日保育の利用者数ですが、357 人で目標を達成しております。これも前年度の数字が 533 名でしたのでこちらも減少傾向にあります。 続きまして体育施設の維持及び管理の指標です。維持及び強化の資料です。公認大会の開催数7回ということで、目標達成しております。大会の具体的内容については右の備考欄に記載しております。続けて陸上競技場の利用者数は、2万 9,928 人と目標達成しております。 続けて観光、産業振興、広域観光体制の充実及び強化による広域観光の推進の指標です。中部圏域の観光入り込み客数が指標になっております。単位は千人です。目標 218 万人に対しまして、実績 257 万 7,000 人ということで目標を達成しております。こちら観光推進機構の資料から数字を取ってきております。 続きまして、地域公共交通。生活地域を一体化する公共交通ネットワークの充実の指標で、新しくバス利用者数割合という指標を設定しております。こちらは地域の人口に対してどれだけの人が乗っているかという指標になります。令和2年度は全体で 77 万 4,601 人がバスを利用されております。圏域の人口 10 万 541 名ということで、計算しまして 7.7 人となっております。 続きまして地産地消の推進です。圏域内にある直売所の販売額、単位は千円です。12 億 1,525 万 6,000 円ということになっております。目標には到達しておりませんが、昨年度の実績が 11 億 9,900 億円でしたので、若干の増ということで推移しております。ま

	た、食のみやこフェスティバルの来場者数につきまして、令和2年度は残念ながらコロナ禍というところで開催できず、ゼロということになっております。令和3年度についても例年通りの開催とはならなかったですが、中部圏域の飲食店の協力を得ながら、スタンプラリーの形で実施をされています。令和3年度、80 店舗が協力して、スタンプラリーの応募が約 650 名ありました。令和4年度については、例年通りの開催でいきたいと伺っております。大御堂廃寺の場所での開催を検討されています。 続きまして、空き家バンクの連携等による移住の促進です。圏域外から圏域内に移住した人数は、目標 500 名に対して 635 名で目標達成しております。昨年度が 603 名でしたので上昇傾向で推移しております。 続きまして未婚・晩婚化の解消への取組の推進です。婚活イベントは、1市4町で実施しております。成婚組数の方は0件ということになっておりますが、今年度から新たな指標として、イベントやセミナーの中で、参加者同士のカップルが成立した割合という数字を出しております。目標 35%に対して、31%ということで、達成はしておりませんが、目標に近い割合でカップルの成立ができています。また追っ掛け調査で、平成 30 年度にイベントに参加されたカップルの中で1件、また、令和元年についても2件成婚になった例が確認されたという報告を受けています。令和2年度に成立したカップルについても引き続き調査を進めていこうと考えております。 取り組み成果については以上です。続けて、資料の3番、令和2年度の決算額について説明します。こちらもいくつかピックアップして、ご説明させていただこうと思います。資料3番、A3の3枚になっておりますので1枚目から進めさせていただきます。 まず医療の分野です。休日急患診療所の運営事業は決算額が 1,518 万 4,000 円。病院群輪番制の運営事業は 845 万 4,000 円が計上されております。こちら連合負担金として広域連合に負担金を支払っております。 続きまして福祉の分野。タッチパネル整理活用事業です。倉吉市と湯梨浜町で 78 万円の支出、156 万 7,000 円の決算額となっております。これの中身についてですが、タッチパネルの機器を新たに各一台購入したということで計上されております。 続けて教育の分野です。体育施設の機能で、体育施設機能調査活用検討事業 73 万1,000 円を計上されています。こちらは法令で定められた点検を毎年度行う必要があるということで、点検業務を委託しております。続けて、陸上競技場の維持管理事業です。競技場横のトイレの街灯の修繕を行っておりまして 44 万計上しております。 続けて産業振興の分野です。観光情報発信・セールスプロモーション強化事業です。全体で 3,257 万 3,000 円計上しております。湯梨浜町が地域ブランド構築支援業務委託料 1,337 万 3,000 円、琴浦町が観光マーケティングインフラ構築委託料 800 万弱、観光情報発信機能強化事業委託料 700 万円計上されております。 続きまして2枚目の資料に移ります。農山漁村等での体験を通じた修学旅行誘致事業は 300 万円弱計上されております。 地産地消です。地産地消拡大事業は 413 万 5,000 円の決算額を記載しております

	が、こちらは北栄町の『すいか・ながいもマラソン』中止に伴いまして、参加予定者にダイレクトメール及び助成券を発送した費用になります。 続きまして交流移住事業、広域連携婚活事業です。100 万円の決算額で、1市4町で均等負担ということで支払っております。 最後、人材の育成確保です。子育て支援に関わる職員等に対する合同研修会の開催事業です。開催を予定していたのですが、コロナの感染防止ということで開催はせず、決算額ゼロということになっております。令和2年度の決算額については以上になります。 続きまして、資料の4番。令和3年度の予算額についてご説明します。 医療の急患診療所運営事業は先ほど説明いたしました連合負担金を支出する見込みになっております。 続きまして教育の分野です。体育施設の活用検討事業ということで、倉吉市で398 万7,000 円を計上しております。こちらは先ほどの点検業務とあわせましてスポーツセンターの外壁の現状調査する必要があるということで、調査業務の方を委託する予定となっております。また陸上競技場で 4,090 万 6,000 円計上しておりまして、こちらがトラックの舗装改修する工事を発注しております。 続きまして観光の分野です。観光商品の開発強化受け入れ体制の充実等による観光推進事業です。全体で1億 1,476 万 2,000 円計上しております。こちらは温泉に関することや観光協会の補助金、スタンプラリー、そういったものがそれぞれ計上してあります。 続けて観光情報発信・セールスプロモーション強化事業です。3,665 万 7,000 円計上しております。新しいものは、湯梨浜町のワーケーション推進事業 1,345 万円。琴浦町の観光マーケティングインフラ構築委託料 800 万円計上されております。 続きまして資料4の2枚目です。上から4行目、中部消費生活センター運営事業です。816 万 3,000 円を計上しております。例年 500 万円程度の事業規模でしたが、県の補助が終了したことに伴い、負担金が増えております。 続きまして地域公共交通です。鳥取県中部地域公共交通網形成計画掲載事業ということで、1,449 万 4,000 円計上しております。倉吉市のバスの修繕料と、三朝町の再編実施事業が予算計上されております。 続けて地産地消の拡大事業です。1,115 万 4,000 円計上されております。先ほど申し上げた令和3年度のスタンプラリーにかかる費用や、北栄町の『すいか・ながいもマラソン』中止に伴う参加者へのダイレクトメール送付の費用計上しております。 令和2年度の取り組み成果の実績、また、令和2年度の決算額、令和3年度の予算額について説明をさせていただきました。資料の5番、定住自立圏共生ビジョン掲載事業進捗管理シートというものを用意しております。各事業の詳細につきましてはこちらに記載しておりますので、ご一読いただければと思います。以上です。
会長	はい。それでは皆さんからお気づきの点がございましたら、何なりおっしゃっていただ

	ければと思います。取り組み状況や決算、予算について。
委員	令和3年度の体育施設の市営陸上競技場の維持管理について。予定してあった事業ですね。つまりラインが国際規格からちょっと増えてきて、さらに合わせなくちゃいけない。そうでないと記録は全部認められないということになりますので、それに合わせないといけないというようになったんですが、この7月の大雨のために、陸上競技場が泥だらけになり、この工事に入れなかったということがありました。だからこの予算が、そのまま来年に繰越されるているということが説明されなければいけないのではないでしょうか。
事務局	申し訳ございません。委員からおっしゃっていただいた通り、7月の大雨の影響で競技場が泥で運用できない状況になっておりましたので、計上されている改修工事につきましては、来年度の繰り越しで予定されています。
委員	11 年にわたって移住定住の促進のサポート支援に関わって参りまして、今日冒頭から人口減少ということでお時間を大変裂いていただいておりますけども、本当にコロナで時代が変わってしまって、『普通』が変わってしまったというか。ニューノーマルという言葉もありますけど、そういう時代に今入っております。ですので支援の方も、各市町もそれに合った支援を見直して、プラスするもの・削減するもの、新しくどうしたらいいかと考える時間を取っていただき、それに予算をつけていくということが必要だと思います。 自分たちもずっと移住カフェを 10 年やってきましたけど、コロナで移住者の交流会ができてなくて、1年半が経ってようやく少し落ち着いたかなと思い、今月から毎月再開しようと思っています。基本リモートでやりますけども、リモートより、やっぱリアルの対面の方が、より共有感があります。それで人数を絞って、現在企画している第1回目を今月 19 日にやりますけども、これは倉吉だけのためにやるわけじゃなく、1市4町の方にも見ていただきたいし、全国の移住希望、興味のある方にも配信していこうということになっています。それによって鳥取県のふるさと定住機構さんにもお世話になって、映像配信してもらわなきゃならないですし、また例えば倉吉に住んでいるんだけど勤めは琴浦だとかですね。その逆もあるわけです。ですからそういう意味では各市町が連携をとることも必要であろうし、またこの移住カフェも、今回と来月は倉吉でありますけども、例えば琴浦でやったり湯梨浜町でやって、湯梨浜町の移住者に来てもらって、リアルな話を対面式でやってもらったり配信していくと。そういうことでやっていこうと思います。ですので行政ができることとは、予算もそうなんですけども、会場を貸していただくとか、Wi-Fi が繋がる部屋を貸していただくとか、そういうことはお願いしたいなと思います。また例えば会長もは大学の一室を貸していただいて、移住してきた学生さんの時間が許せば、その学生さんの意見を聞いて、『こうあった方がいい』とかですね。そういったものを拾い上げていって配信できたらなというふうに思います。意見というか半分お願いになりましたけども、各市町の行政の方、また会長さんにも合わせてお願い申し上げます。以上です。
会長	行政の方から何かありますか。

事務局	ご意見ありがとうございました。まさにコロナでニューノーマルという考え方になっています。若者がやりがいを持てる仕事を増やすというところで、前までは大規模な企業誘致をこれまでやってきました。しかしこのコロナに入って、必ずしも大きくなくてもいいじゃないかと価値感が変わったと言えるかと思います。コロナによってテレワークを否応なしにやらなければならなくなった企業もある中で、テレワークを地方に持ってきて、若者がやりがいを持てる仕事を増やす誘致もあるだろうと。 ワーケーションという言葉があります。働きながらバケーションを楽しむ新しいライフスタイルを推進していこうとしております。これは各市町単体で取り組んでも仕方がないことですので、しっかり1市4町の中部圏域で連携をしながら、取り組みをさせていただきたいと思います。また、移住カフェの移住者に対する情報発信というところで、行政側で連携してできることは引き続きやらせていただきますので、ぜひお声を寄せていただけたらと思っております。
会長	大学の方について。地域とともにある大学がキャッチフレーズですので、受けて立ちますのでいろいろとおっしゃってください。他に。どんなことでもいいですからおっしゃってください。
委員	先ほどの娯楽・文化を重視するということで一つ。ご存知の通り、来年、令和4年の春に美術館の建設に着工すると。これは周知のことですけども、2年後に完成、3年後にはオープンになります。私思うんですが、私の周りでも美術館ができる、中部に来るんだということが話題になることが少ないと思います。『美術館が中部に来てよかったね』というような話はなかなか聞こえてこないということがあります。コロナがワクチンによって終息した場合、県外からたくさん県内にこられる。倉吉市民も、中部の方も県外に出るというときにですね、やっぱり私の住んでる町に美術館が来るということを、年間 20 万人ですね、目論んでると。1日 500 人。お客さんが中部に美術館に来られるということを、目標にされてるということなんですけども。美術館が成功するということは、一つの指標としては入館数ですね、20 万人ということですけども、私たち市民が県外に出かけて、或いは県内県外から中部にきて、美術館ができるということで中部が住みよく、民度や文化度が高い地域だということを知らせるために、もっと私たちが言いたいんですけども。ただ、この現状、来年の1月ごろには着工になるってことを聞いてるんですが、全く美術館ができるというような話を聞かない。実際に現地の建設現場とかに行けば横断幕あったりするんですが、なんとなくこの周辺見ても、中部の地域もなんかそういうことが見える場所がないと。もうちょっと行政も機運を高めてもらって、やっぱり自分たちの自慢や誇りにできるようなものがあればと思うんですけども、いかがでしょうか。以上です。
事務局	ご意見ありがとうございます。議員がおっしゃっていただきましたように、着工、工事の方ですね。実は市からこのラグビー場の土地がこの1月に譲渡されます。それをもって、県の方が1月から工事に入られて、2月には着工の集い、まだちょっと仮の名前ですけども、そうした形でイベントも組まれております。そうしたものをしっかりとPRも含めてさせていただきながら、その住みよい、文化の匂いが漂うようなでところで、皆さんに周知し

	ていきたいというふうに思いますし、こちらの方も1市4町でしっかりと取り組んでいきたいなというふうに思っております。
会長	もうすでに美術館の設置の大きな推進協議会があって、石田連合長が長になって、何回かそういうことをやっています。ただ、今コロナ禍で会議一つがなかなかうまくできてないというのと、やっぱり現物が動き出してからというのが随分あるなという感じがしています。間違いなく動くと思いますので、それだけではなくて、みんなでやっぱり盛り上げたいとは思いますけども、そういう会もしっかりやってると思います。他に、はいお願いします。
委員	私の委員としての原点は「地元町民であること、高齢者であること」です。 愛着という言葉は様々に説明されているように思われます。私は若者に愛着を持てという事より、今住んでいる私達が地域に愛着を持ち自立して、軽やかい朗らかに生きていることが若者に地域に愛着を持たせることに通じていくと思います。 なぜなら私は男女共同参画社会実現のため推進活動をしています。初期の頃、冗談に「過疎は私ら嫁の怨念、嫁が作っている」と話していました。だからこそ、「嫁の怨念」を生まぬ様に皆が生きやすくなるための活動をしているところです。このことから私達が愛着持つ生き方を見せることが愛着を持たせることに通じるように思います。 若者に対して、特に学生には卒業後の出口問題を本人たちにディスカッションして頂きたいのです。入学した時点でこの学校で何を学び、出口をどこに求めるのか。若者が地域に愛着を持ち定住するために大切なのが出口問題だと思います。何十年も言われている事ですが学校側が考えるきっかけを与え、学生本人が考えるだけでなく行動も出来るように希望します。 今、ワーケーション、岩美等きらびやかで楽しい話題ですが、中部でも例えば委員のところに学生が長期休みをワーケーションしてもいいのではないでしょうか。各市町村事務局にそのような機会を与える企画をお願いしたいです。 事務局へのお願いです。すでに配布済の資料は訂正がないのであれば配布必要がないのではないでしょうか。机を見て戸惑いました。さらに倉吉市の「総合計画」が配布されていますが各町村もそれぞれに素晴らしい「総合計画」があると思います。開会前に「○○町です。話させて下さい」と議題に関するわが町PRして頂ければ　本日の議題にも委員が具体的意見を述べることが出来るのではないでしょうか。 長くなりました。よろしくお願いいたします。
会長	ありますか、何かそちらで。
事務局	ご意見ありがとうございました。大学生等が、地元に愛着を持つ、また、住んでる方自身が『この地域は本当に住みやすくてすばらしい町なんだよ』っていうことを、若者たち、子供たちに伝えていくということが非常に重要だと思っております。そういった中で、大学生が地元の方と交流をするような場というものを、もっと増やしていく必要があるんじゃないかなということを考えておりまして、倉吉市と鳥取短期大学とで協議を進めております。中部の圏域で、学生がいろんな集落に行って、一緒にイベントをしたり、話し合

	いをしたり、そういった取組を実現していきたいと思っております。まだ準備中ですので、詰めないといけないところあるんですけれども、今進めているということをお伝えしたいと思います。 資料につきましては本当に申し訳ございません。精査をしながら、より分かりやすい資料とさせていただこうと思っております。あと大学の方から何か一言ございましたら。
会長	まず今、県の教育委員会が、保育園・幼稚園・小中高校でふるさとキャリアップ教育をずっとやってきています。大学も県の教育委員会と連携協力を結んでいてます。小中高大と、キャリアアップの連携をとろうと。そこにふるさとが入ってくる。そういうことが今動いてるんですね。必ずしも、若者をここにずっと縛るんじゃなくて、でも、どっかに出たとしても『やっぱり故郷いいよな』って帰ってくるという、そういう若者を育てたいなということで、今一生懸命取り組んでいます。それから、このふるさと定着率はちょっと自慢さしてもらわないといけないんですけども、先ほどもありましたように看護大学は、鳥取県出身者は大体7割から8割ぐらいですが、就職の時は、鳥取県に9割以上が就職しています。それから短大もこのデータでは違って、県内から入ってくるのが7割から8割ですけども、それ以上、短大に残ってます。ということは、ここにいて、さらにＩターン組もいるっていうことなので、むしろちょっとそこら辺は胸を張らせてもらいたいなあと思っています。よその大学の文句言うつもりはないんですけども、他の大学に鳥取県から入ってくるのが1割から2割ぐらいなんですね。国立であり県立であり。そしてそれ以下しか残らないっていう現状がある。そっちをどうするかっていうのは大きな問題だと思っています。よそだから放っておくつもりは全然なくて、一緒にふるさと鳥取にもっと残すにはどうしたらいいかっていうのは考えなきゃいけない。それは確かに就職口の話ってのは大きな問題ですが、僕は今でもあると思うんですね。だからその発想を変えてかないといけない。おっしゃったのはワーケーションもそうかも分からないし、NPOを作ってやろうという起業家を作るのもそうだし、何か既成のところで『ない、ない』っていうのはおかしいと思ってる。で、むしろそういう若者がどう動くのか、それをどう我々が支援するかってことを考えなきゃいけない。そう思っています。
委員	それがお願いしたい出口問題に、学生本人を取り組ませてくれっていうのは。
会長	そういうことを、もう授業の中にそういうのをどんどん入れ込んでるんで、大分意識が変わってきてると思いますね。それから事業の中に、現場の方々に来ていただいてお話をしていたという事業をたくさん入れ込んで、それはうちだけではなくいろんな大学もやってます。
委員	それに関連してですけど、看護大学の学生さんがですね、今度 12 月 20 日、21 日に上灘地区の公民館で、私たちも含めた形の公民館役員さんとフィールドワークという形で、これは倉吉市内のだけじゃなく中部県内のところにも回っておられるはずです。そういう実際取り組みをしておられますので、地域との密着ってのはあるなというふうに感じております。実はこの共生ビジョンの中には課題としては出てこなかったんですけども、最近気になってるのは大学生の一歩手前、高校生ですよね。中部の高校生をどうやる

	のか。一つには、人口減に伴って、現在の課題になってるのは、中部地区の学生たちが東部西部の高校に行く率が非常に高いんです。これは中部地区の今の県立高校は、もう早晩見直しがかかってきますから、例えば普通科高校3校がありますけども2校にするという方向が出てくる可能性があると思います。これしっかりとこの議場で議論していく必要があるんじゃないかと思っています。高校の方は高校の方でですね、自分たちの方法が何をやってるかっていうことを、各市町の社会教育係の方と連携しながら、中部地区のハイスクールフォーラム、倉吉で何回かやって、北栄でもやって参りましたし、今度は琴浦でやってもらいますよね。そういった形で、高校は何やってるのかということを、地域の皆さんとやっていくという取り組みをしておられます。こういったものに是非とも援助していただいて、やはり高校生がしっかりと自分たちの地域を意識をしており、それがUターンに戻ってくる可能性になるわけですので、そうしたところをまた、事務局の方でも議題ないかもしれませんけれど、ぜひ入れてですね、ここの問題も早晩出てくると思いますので、取り上げていただければと思います。その時に私はちょっと、この間生涯学習講座の中で面白かったと思うのは、三朝町の中学校の修学旅行の話です。町内の旅館に、コロナの中だから泊まる。この中で実に多くの発見があったと。こういった発想ってのはものすごく大事なことなんじゃないかなと思って、そういうものの芽生えがあるわけですからそれを大事にしてはいけばいいんじゃないかなあというなことをちょっと感じました。以上です。
事務局	ありがとうございます。地元の高校生が住んでいる地域を実はあまり知らないということがあります。地域の良さをしっかりよさを伝えていくということが大事だと思ってます。その中で、鳥取中央育英高校がふるさと学習の取り組みをされてます。何か一言いただけますか。
北栄町	北栄町です。鳥取中央育英高校で、生徒の方に地域のよさを知っていただきたいということで、鳥取中央育英高校と北栄町と琴浦町と協定を結んで、地域を学ぶ地域探究の時間を行っています。学年は2年生になるんですけど、地域の農業、観光、福祉、スポーツとか、10 何グループに分かれて、地域の方を講師に招いて、地域の方が先生で地域のよさであったり魅力を伝えて、生徒たちに地域を知ってもらっています。先ほどから何度も出てますけど、そういったことで将来一度学生が県外に出ても、将来は帰ってきて欲しいというようなことを目的に地域探求の時間に取り組んでおります。平成 27 年ぐらいから取り組んでおります。
委員	地域探究は、実は私、空き家のチームを担当してまして、これは先日2年生の生徒 10 人ぐらいが倉吉に移住されてカフェをされた 70 代のご夫婦のところと、倉吉に新しくゲストハウスをスタートされたご夫婦で移住された方、紹介して皆で質問攻めにしてですね、あとチャレンジショップで起業した若い男の子とか、そういうことで私ご案内しまして、非常に勉強になったと先生ともども喜んでおりましたので、確かにいい企画で、地域単位でいいかと思います。ちょっと補足でした。
会長	20 分、3時半に終わるんですが、今までご発言のない方、あれば質問を。もうすでに

	発言をされた方は一通り回ってから時間があれば行きます。30 分に終わろうというのを頭に入れながら発言してください。じゃあ、お願いします。
委員	今、地域の方に学生が入っていって、地域のよさを知るっていうような話がございましたけれども、今NPOの方では、地域の中学生さんとか小学生さんになるんですけれども、そちらの方と地域のボランティア活動を通しながら、地域のよさをもう一度見なおしていただくということで、今年度もですね、関金町の中心にある亀井公園の清掃を行ったり、先日の日曜日にあった関金温泉祭りに、農業大学校の生徒さんとかにお声掛けをしてボランティア活動に参加していただいて、いろいろと地域の方との交流を深めていただくことを何度か今年度は開催しております。その他にNPOの方で体験型協議会と協力して、関西方面の中学校の修学旅行を年間約 1,000 名ぐらい入れています。去年2回ぐらいコロナの関係で、キャンセルになったんですけれども、来られた方が思い入れがあって、戻ってこられるっていうか、修学旅行を終えた後でも個人的に受入家庭の方と繋がりがあって、訪問される学生さんも何人かおられます。皆さん一度訪れたところは思い入れもございますし、地域の方も、そういう活動を通して普段生活してる中で意外と知らないで生活してる子どもは結構おられるんですね。なので愛着を持っていただくということについては、大人がやってそういう場を提供するということが必要なのかなと思いました。個人的なことですけど、うちの子どもが今就活中なんですけれども、やっぱり県外の方っていうか、上の子も県外に出ましたし、下の子もやっぱり県外の方で。県内で探したいんですけれども、やっぱり受け入れの人口的なところが少なくって受け入れていただけるところは少ない。そういうところがですね、なかなか難しいところも実際問題あるのかなっていうのは、今言われたように学生さんの声を聞いていってそこから私たちができるヒントが得られるんじゃないかなっていうのは思いました。
会長	はい、ありがとうございます。
委員	交通の面で、先ほど委員の方からも、中部の高校の進学というところで東部西部にということで、私自身もとても残念に感じておる1人です。2年ぐらい前、路線バスの見直しで、やはり高校生をターゲットにして、今までの走り方じゃないやり方で路線の再編をしたところで、郡部からの西高の生徒さんが非常に多くなったりとか、その逆の育英の方に通う生徒さんのために経路を変えたりとか、少しずつ通学のしやすさということ取り組んで参ったところでございます。高校生の進学を助けることによって、地域に愛着を持つというのは、やはり仲間、この中部にですね、学生の頃仲間がいるということが、すなわちUターンに繋がるんだろうと。若いうちはふるさとの魅力って何だろうって分からないと思うんですよね。そこにやはり、中部で一緒に学んだ、運動した仲間がいるということが、そのUターンに繋がると、私も感じておるところであります。今後も、そういった観点で交通についてではありますけれども、取り組んで参りたいなと思います。引き続きよろしくお願いいたします。以上です。
会長	はい。後は一つ飛んでお願いします。
委員	医療面としましては、この定住自立共生とか、このビジョンに対して本当に大事なとこ

	ろを担っているところだと思っておりますけれども、現時点では、先ほどコロナというお話が出ておりますけれども、本当に今医療機関の方はもうコロナ禍で、第6波のこともございますし、本当に医療機関そのものが戦っているような状況ではあります。そしてまた今、ブースター接種という話がございまして、12 月から接種が始まるようなこともありまして、バタバタしたようなところで、なかなか皆さんがお話しておられる若者の話、例えば地域に愛着を持つだとか、そういうようなことがなかなか出来ないという状況です。例えば小児科の先生でありましても少子化がありましたよとか、いろんな本当に問題を抱えておられると思うんですけれども、本当に今、コロナで振り回されてるような状況でございます。 　短期大学さんだったり、看護大学さんだったりだとか、本当に9割程度、卒業生さんが地域に残られるとかっていうもう本当に、素晴らしいお話お聞きしたところなんですけれども、うちにも中部医師会附属の准看護科の看護学校がございますけれども、この看護学校も令和3年度、令和4年3月 31 日で閉校になります。120 年ぐらい、産婆学校から始まりましてですけれども、これは時代の流れっていうふうには言っていますけれども、年々本当に学生が減少しておりまして、今回最後の卒業生も、今のところ1名となっております。この貴重な1名も地域にも貢献してくれることだとは思っております。准看護制度の看護学校が閉校するまでに、このビジョンの懇談会でもちょっと相談させていただいたら、また少しちょっと変わった道も開けたかもしれないとか、今になっては思ってるようなところでございます。失礼します。
委員	他町委員が強く熱く語られました。人口減少の一番の問題は私たちだと。本当にそこのところに、私たち大人がもう一度意識を持っていくことから始める必要があると思っております。子育てをするお父さんお母さんの価値観。高い教育を受けて、偏差値の高い学校に子どもたちを送り出すことが、決して子どもたちの幸せではない、親の幸せでもないということ。また高い教育を受けるのはそれで素晴らしいことだと思うんですけれども、学びを終えた後、大企業に勤めること、これがあたかも人生の幸せのような、そんな価値感。こういうことの気づきからまず変えてかかる必要があるんじゃないだろうかなというふうに思います。 　豊かっていうのは決して自然の豊かさだけではなくてですね、人の豊かさや、生活していく上での整えられた環境の豊かさだとか、そんなものを私たち大人世代がしっかりと見つめてそこに価値を見いだして子どもたちに伝えていくことから、この豊かな地域づくりが始まるんじゃないだろうかなというふうに思っております。 　あわせて、そんな若者がふるさとに帰ってきて、仕事ができるような環境づくり。プレゼンの中の 23 ページのところで説明がありました。若者がやりがいを持てる仕事を増やすために、大企業に限定せずに小さな企業でもしっかりと学んだ高い教育を受けた若者たちが仕事ができる環境づくり、こういうものも、我々環境整備をしていく必要があるんだろうなというふうに思います。企業は企業で、その企業づくりしていくんですけれども、それらの情報発信をしっかりと我々企業の者たちはやっていく必要があるんだろうな

	と。人が来ないこないといって嘆くんではなくてですね、自らが自らの企業の優れたところといいますか、そういうところ、しっかりと地域に情報発信しながら、そういう若者を受け入れる職場づくりもまた必要だろうなというふうに思うところであります。高校の再編ということを委員が発言なさったんですけども、北栄町にはその学校が一つありまして、果たしてどうなるんだろうか。この学校は学校で、また一つの魅力づくり、生徒があそこの学校に行きたいというような、そんな学校づくりもまた必要な作業だと思います。みんなで知恵を出し合う、そんな場こそ必要だなと思っております。さらにこの会議が熟していくことを期待しております。以上です。
委員	今日もたくさんいろんな話を聞いたんですけども、うち子どもが3人おりまして、長女は米子の高校へ。次女は鳥取方面の高校、長女は卒業して大阪に進学していて、またすごい耳が痛いんですけれども。 いろいろ子どもと話をするときに、今、高校の話がすごく出たんですけど、高校選ぶときに、確かにどの学校も学力に合わせた、将来を見越してみんなが入学するんですけど、倉吉の高校に入学した次女の友達にいろいろ聞いたんです。そしたら『特に高校には不満はないんだけど、制服が何とかならないだろうか』と。別の高校の校長先生と話したんですけど、そこ盲点だったって言われたのが、制服が昭和から変わってない。女の子は高校3年間どういう学校生活を送るっていう時に、友達とか学校の立地もあるんですけど、この制服を見て3年間通うかっていう。どの制服を着て通うかっていう時に、同じような学力で自分が通えるという覚悟があれば、ちょっとでもかわいい制服だったら遠くても行ってしまうっていうところもあります。ここで話すのは、ちょっと違う話かなと思ったんですけど、高校の東部と西部に、子どもたちが流れてしまうっていうのも、多分その歯止めになるんじゃないかと思って。どなたかそういう、お知り合いだったら女子の高校の制服を、そんな高くないものでもいいんですけども、せめて令和の服だよなっていう感じに変えていただくお話ができる方があればよろしくお願いします。
委員	ケーブルテレビの業界でも、全国的な少子高齢化や、世帯数の減少、それからコロナ禍の新たな事情にどういうように対応していくのかということで、ケーブルテレビ業界で『2030ケーブルビジョン』というものを作りました。これは、ここから十年間、ケーブル業界は地域のために何をしていけるのかといったようなところをまとめているものなんですが、やはりその中で全国的に、地域内とどういうふうに連携していくのかとか、或いは地域に密着した報道のあり方だとか、或いはにぎわいの創出、それから地域DX、デジタルトランスフォーメーションですね、そういったものに関わって、地域といかに関わっていくのかといったようなところを、ケーブルテレビ業界はこれからどんどん進めていきたいなというふうに考えております。企業とお客さんという今までの関係から、地域コミュニケーションをともに作っていくメンバーシップを目指すというようなところで、ケーブルテレビの業界は進んでいきたいというふうに考えております。以上です。
会長	最後になりました。委員お願いします。
副会長	皆さんいろいろご意見出されました。やはり会議は何のために開いてるんだっていう

	目的、着地点。どういう手順を踏みながら目的地に着くかというマップも必要だと思います。皆さんいろんな方が集まっていただいて、今日お話しされた中で、いろんな情報を新たにお聞かせいただいたということでございます。こういうのもいいな、といいますか。久しぶりに感じました。型にはまった会議も当然必要なんですけども、いろんな意見をディスカッションする、人の意見を聞く、言いたいことも言う。こういうことがなかなか訓練できてないので、いいなと思ったりします。これからさらに後ろ向きなことは言わないというか、前向きしかないんですけども。ただ、状況が好転するかどうかってのはこれからですので、ぜひ力を合わせて、共有しながらやっていけたらと思います。情報共有の中で新聞とかはね、日本海新聞の購読率高くて、皆さんそれ見てらっしゃったり、テレビもいろんなチャンネルあるんですけども、ケーブルテレビさんがいらっしゃいますけど、前の会議も言ったんですけど、都市型と農村型のケーブルが混在してまして、中部の情報がなかなか一元化で伝わってこないっていうのがちょっと悩ましいなというふうに感じてますんで、これ何とかならんのかなと思ったりもします。以上です。
5 その他	
6 閉会	
会長	会議の講評ありがとうございました。会議、大いに議論出し合わないけないんですけど、大切なのは後のアフターフォローで実施がないとどうしようもないんで、ぜひ、具体的なことを実行できる、そんな会であればいいと思います。終わっていいでしょうか。じゃ、今日はこれで終わります。ありがとうございました。